



日本リハビリテーション医学会ニュース

リハニュース No.41

発行：社団法人 日本リハビリテーション医学会 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6丁目32番3号 Tel 03-5206-6011
Fax 03-5206-6012 ホームページ <http://www.jarm.or.jp/> 年4回1、4、7、10月の15日発行 1部100円

特集

リハビリテーション医学における女性医師の活躍 女性リハビリテーション科専門医の会の活動について

日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医会 幹事 浅見 豊子
女性リハ科専門医の会 担当



背景

2009年の医師国家試験の合格者に占める女性の割合は34.2%と、近年女性医師の数は漸増しており(図)、米国並みの4割に達する日もそう遠くないと言われています。しかし現在、リハビリテーション(以下、リハ)科専門医数1,650人のうち女性リハ科専門医数は254人、15.4%と全体のまだ20%にも満たない状況にあります。昨年の当学会リハ科専門医会の「リハ科専門医需給に関するWG」においては、リハ科専門医必要数は3,078~4,095人と推計されました。リ

ハ科専門医総数自体も必要推計数の半分程度であり、リハ科専門医数の絶対的な不足は明らかですが、その中において女性リハ科専門医数が伸び悩んでいることも問題ではないかと思われます。リハ科の診療科としての特徴として、他の診療科以上に多様性があることが挙げられます。例えば、急性期病院、回復期病院、身体障害児者施設、教育・研究施設など職場も多様化していますので、当然職務内容も多様性をもつことになります。つまりこのことを上手に利用すれば、リハ科においては女性医師が仕事と家庭のバランスをとるために必要な勤務支援体制

を整えれば、リハ科においては女性医師がキャリアを継続することは比較的容易なものではないかと思われます。また、もともとリハ医療はADLやQOL、小児医療などをはじめとして、その内容においても女性に馴染みやすく興味をもちやすい分野でもあり、女性がリハ医を目指すことが他の診療科と比べ困難な道であるとは思えません。しかし、現状は十分な数の女性医師がリハ科を選択しているとはいえない状況にあります。このような点からも、リハ医育成を考える上で、女性リハ科医師の育成に目を向けることは重要なことであると感じております。

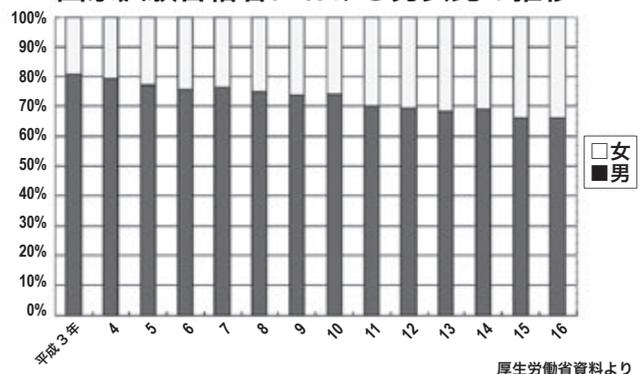
日本リハ医学会においては、良質のリハ医療を多くの国民に提供する体制を作るために、速やかに現行の育成制度の問題点を洗い出し、質を担保しつつリハ科専門医・認定臨床医数の適正化を図る方策を具体的に検討するなどを目的とした

目次

- 特集：リハ医学における女性医師の活躍
—女性リハ科専門医の会の活動について……………1-2
- リハ医への期待③パーキンソン病患者のリハ……………3
- 第46回学術集会：近況報告……………4
- 障害保健福祉委員会コラム：産科医療補償制度と補償申請に係る「診断協力医」について……………4
- 専門医会コラム：第4回学術集会演題募集、宿泊案内……………5
- INFORMATION：システム委員会、教育委員会、障害保健福祉委員会、評価・用語委員会、編集委員会、東北地方会、中部・東海地方会、中国・四国地方会、九州地方会、事務局だより……………6-7
- 医局だより：東京慈恵会医科大学……………8
- REPORT：第32回日本高次脳機能障害学会、第34回日本脳卒中学会……………8-9
- 広報委員会より……………9
- お知らせ……………12

広告：金原出版(株)、万有製薬(株)、第一三共(株)、武田薬品工業(株)、(株)大塚製薬工場、エーザイ(株)

国家試験合格者における男女比の推移



リハ医育成アクションプラン(案)が策定されていますが、その中で、A専門医増加・質の向上に向けた方策【1】現行制度下でのプランの「1.リハ科専門医会での対応」として(e)女性リハ科専門医の会の活動が挙げられています。このたび、リハ科専門医会幹事としてこの活動の担当をさせていただくことになりましたので、これからこの女性リハ科専門医の会としての活動を本格的にスタートさせたいと思っております。まずは女性リハ科医師相互における親睦をはかり、その上で臨床および研究の情報交換、教育普及などを行っていきたくと考えております。そしてそのことが、女性リハ科医師の支援および女性リハ科医師数の確保につながるよう努力してまいります。



花が咲き、和やかで有意義なひと時を過ごすことができました(写真)。また会を終えました後も、各人におきまして仕事や研究の情報交換や施設見学訪問などの交流が続いておりますことは、大変喜ばしいことだと思っております。

性を決めようと思っている方々に、リハ科が女性医師にも適した診療科であるということのリハ医療の仕事の内容などを含め十分に知ってもらい、またリハ医療へのモチベーションを高めてもらう機会を設けていければ嬉しいことです。

これまでの活動

女性リハ科医師が集う機会を設けたいとの考えで、昨年12月6日の福岡における第3回リハ科専門医会の際に有志を中心にお声かけをし、リハ科専門医会二次会for Ladiesをホテルオークラのパロンオークラにて開催いたしました。専門医会懇親会後の21時過ぎからのスタートとなりましたが、31名のご参加を得ることができました。初対面の方も多かったにもかかわらず、仕事や家庭の話に

今後の活動予定

リハ医育成アクションプラン(案)にも挙げていただいております女性リハ科専門医の会のWGを立ち上げ、これからの活動についてプラン作成を行い実行に移していきたいと思っております。具体的には、1)女性リハ科医師に対するアンケート調査、2)女性リハ科医師の専門医研修支援、3)女子学生や女性医師へのリハ科広報の充実などを考えております。とくに女性医師として今後の方向

そして個人的な思いではありますが、最終的に日本リハ医学会としての女性医師の会が設立され、継続的に女性リハ科医師のための支援が行えるようなシステムが整備されますことを願っているところです。

なにぶんこの活動はようやくスタートラインについたところでございます。会員の皆様には、この活動に関しましての忌憚のないご意見をお寄せいただき、ご指導ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2009年女性リハ科専門医の会懇親会開催のご案内

今年も女性リハ科専門医の会懇親会を開催いたします。今年の専門医会は10月16日、17日、18日に長野県下諏訪にて朝貝芳美先生のお世話で開かれますが、女性リハ科専門医の会懇親会は17日土曜日の全体懇親会の後に「料理温泉旅館 奴」にて開催予定です。まだ専門医でない方もお子様連れでもご参加可能です。申込方法は下記のとおりであり、学会ホームページにも案内を掲載していただく予定です。どうぞ、皆様奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1) 懇親会

10月17日 土曜日 夜

(全体懇親会の後)

「料理温泉旅館 奴」にて

* 専門医会の懇親会会場から「奴」まではバスで移動予定です。

* 「奴」の温泉もご利用できます。

* 「奴」は、下諏訪駅から徒歩6分ですので、当日夜のご到着参加も容易です。

2) 宿泊斡旋

10月16日 および 17日 に「奴」に宿泊希望の方はお申し出ください。

* 団体料金にて8,000円、2人部屋～4人部屋で宿泊できます(女性リハ医同士の相部屋です)。

* 「奴」の定員が28名ですので、先着順とさせていただきます。個室希望の方や28名以上のご応募があった場合には、「奴」から徒歩数分内に同程度の宿をご紹介します。

3) お申し込みについて

①ご氏名、②ご勤務先、③女性リハ科専門医の会懇親会申し込みフォーマット希望、とご記載の上、下記メールアドレスにお申し込みください。

⇒ jufujita@imcj.hosp.go.jp

その後、申し込みフォーマットをメールにてお送りいたしますので、ご記入の上ご返信お願い致します。

[世話人]

藤谷 順子

(国立国際医療センターリハ科)

浅見 豊子

(佐賀大学医学部附属病院リハ科)

私は、パーキンソン病と診断され薬を飲み始めてから13年目になります。発病したのは、サウジアラビアで暮らしている時でした。日本人の医者がないというのは本当に不安なものでした。

パーキンソン病の治療法は、薬物療法が中心であると聞いていますが、薬を飲んで症状は進んでいきます。「パーキンソン病で歩けなくなるということはまずありません。歩けないのは関節が固まり筋力が低下しているからです」と、いう話をリハの先生から聞いたことがあります。病歴が長くなっても寝たきりにはならない！介護する人も患者もうれしいことです。時間がかかっても自分の足で歩いてトイレにも行け、食事も自分でできる。そんな普通のことができるということが、私たちの夢なのです。夢は実現して初めて叶うもの。

しかし、パーキンソン病のリハを重点的にしている病院やクリニックがなかなか見つかりません。ある患者は、財団法人の大きな病院でリハを頼んだところパーキンソン患者ということで、なかなか受け入れてもらえず療法士の人にこんなことを言われたそうです。

「パーキンソン病はリハしても治りませんよ。ここの病院は早くリハをすると機能回復が望める患者さんにリハするところです」「治らなくてもいいからリハがしたい」と、頼むと「リハでパーキンソンは、治りませんよ」と、また、念を押され始めたけれど180日で終わらだそうです。

この病気は、長期にわたってリハをしても効果がないので打ち切られたり、始めから受け付けてもらえなかったりする、と聞きますが現状を維持できればそれは効果だと思えます。患者も家族も現在の治療法で、病気が治るとは思っていません。でもリハすることで身体が軽くなり動きやすくなり、外出もできるようになると気分も爽やかになります。この病気は薬と、気持ちと、リハで治療し、1日でも長く今

の生活を維持することができれば、リハの成果です。根治することは今の医学では難しい難病ですから。

病院からは、療養型のベッドがどんどん減って、介護型のベッドに変っていきっていると聞きます。これでは自立どころか、だんだん寝たきりになりやすいのではないのでしょうか。

リハで筋力と気力を少しでも持続し、今研究中のiPS細胞の移植や遺伝子治療が受けられるのを、私たちは待ちに待っています。何年先か分かりませんが、根治できる治療法が見つかることが、私たちの希望であり夢です。

確かに今のリハは、病気が良くなるわけではありませんが、症状が少しは改善され楽になります。

ある患者は、「床に長く立っておられるよう平衡感覚とか腹筋力のつけ方」など教えてほしいと言っていました。

またある患者は、こう言っています。「自分で体操を熱心にやれば十分だと思っても、理学療法士の先生の指導を受けてみて、どこに力を入れるべきか、何を目的とする体操なのか、そのためにどう動けばよいのかを学びました。そのことを知った上で体操することがはじめてリハと言えるのだと分かりました。リハ教室を市で作ってほしいと思います。病状の進行が少しでも食い止められると思います。」

リハによりまだ残されている機能を引き出し、失いかけた機能を少しでも快復できると私たちも未来に希望を持って生活できます。

このたびは阿部和夫先生のお話を聞きリハ医が頑張っておられることを知り大変強く思いました。どうか今後もリハの情報を入れてください。

以下の文は、あるパーキンソン病患者から寄せられました。

リハ医への期待 パーキンソン病患者のリハビリテーション

第3回

全国パーキンソン病友の会 大阪府支部 支部長 山崎 芳子

●私のリハビリテーション

1996年頃から体の異変に気付いていましたが、仕事や生活にそんなに支障を感じなかったので2年間程医者にも行かず生活をしておりましたが、ある日を境にパンプスの靴が左足だけ脱げて飛んでいくようになり、紐靴やブーツのような靴しか履けなくなり、左手が震え力も入りません。同時に人との会話や表情表現が上手くいかず汗が一度に噴出し考えまでとまらず、尋常でない疲れを感じ、娘が勤めている病院に診ていただきましたところ、大阪市立大学病院神経内科を紹介され、難病のパーキンソン病と診断。パーキンソン病って何？難病？信じられない現実でした。

薬を飲み始めて3カ月位は効果が感じられませんが、段々と効き目がはっきりと分かるようになりました。この頃から、パーキンソン病に関する書物・講演会・患者会への入会等で病気に関する現実を知り薬だけ頼っていくのは駄目だと思い指圧・鍼灸・体操いろいろ試してみました。悪くはないのですがパーキンソン病のメニューではありません。時間と共に薬の量は増えてきます。何とか増やさない方法はないものかと思ひ、まず生活のデータを取ることにしました。

薬の量、仕事、家庭、気候、…いつもと同じ生活なのに体調の波が大きいのです。後は精神面しかありません。

平地が歩行しにくいのに階段になると昇り降りしやすい、普通に歩くよりも体力が続くなら走っている方が良く、薬が切れてくると紐の結び方が分らなくなる。こんな不思議な病気、自分自身も理解できないのに他人は勿論のこと家族にも分らないだろうなあ～一人でいると涙が溢れます。「涙が満タンなんだ、

一杯泣いて涙を空っぽにしよう！」と思い、思いっきり泣きながら側にあった鏡に自分のクチャクチャの顔を映し見て、思わず笑ってしまいました。

泣いたり笑ったり…誰かが観ていたら気がおかしくなったと思うでしょう。でも笑っているうちに気が付きました。病気が仲良く付き合っていること、それまでも上手に病気と付き合ったと頭で思っていました。心に響いていなかったように思います。

パーキンソン病と宣告されてから5年が過ぎました。夕方になるとジスキネジア（注：抗パーキンソン病薬などの副作用でみられる特異な不随意運動）が出て辛く、先生に薬の調整をしないと相談し薬の量を設定してもらい、その範囲内で爪のヤスリでそぎ落とし毎日少しずつ様子を見ながら減らしていきました。

一般的にリハとは、身体障害や精神障害を持つ人に機能回復訓練をすることで、個人差のある症状にパーキンソン病の専用リハをしてくれるところは非常に少ないのです。

そこで、私なりのリハを考えようと、先輩達の意見も参考にしているいろいろ考えた末、精神面のリハがパーキンソン病には非常に大事だと思ひ、先ず、朝洗顔の後、自分の顔に大声を出して「おはよう、今日も笑顔でね！」と、思ひ切り笑います。「はっはっはっはあ、はあ～」（私は一人暮らしだからできますが家族がいると恥ずかしいかもね！）それから父の仏壇に般若心経を唱えます。般若心経は肺の空気を全部出しやすいそうです。朝の発声練習でもあり父に対する感謝の念からですので、毎朝続けやすい。

簡単な朝食の準備をしながら好きな音楽を聴きます。外出しない時は薬の効いてきた頃

にビデオに撮っておいたラジオ体操をします。体が動きやすい間に昼食の用意と入浴を済ませます。本当は入浴だけは寝る前にしたいのですが、夜一人で入浴するには薬を余分に（減らさずに）服用しないといけないので、昼間に済ませるようにしています。

私は、歩行障害、筋固縮、寡動、振戦等の症状で家にいる時は動作が寡動でもゆっくりすればよいし震えていても気にしないし無理に歩行をしなくても筋固縮にも成りにくい。できるだけ無理をしないで体を動かすことを心がけています。家事が私のリハです。私にとって薬は車のガソリンのようなもの、勢いよくスピードを出し急ブレーキをかけるとガソリンは減ります。それと同じようなことではないかと思ひ、ゆっくりした生活そのものがリハだと考えています。

そのリハにとっても大切なことは、患者さんの『好み』です。音楽を聴くなら一番好きな曲、写真を飾るなら『嬉しくなる思い出』、食事のときは食事の内容は何であれ『好きな色のナプキン』、とにかく生活に自分のお好みを強調することが大事だと思ひます。

このことは自分で勝手に思い込んでしていることであって、医学的に根拠はありませんが、パーキンソン病の症状が出てから10年以上に成りますが、一時辛かったジスキネジアも少し少なくなり、とても穏やかな進行だと思ひています。

パーキンソン病が良くなる、治るとは考えにくいのですが、iPS細胞の研究も世界中が注目しています。薬もあるし、希望もあります。大変に幸せなことです。後の望むことは、パーキンソン病のためのリハがあればと思います。



近況報告

第46回日本リハ医学会学術集会は、来る6月4日(木)~6日(土)の3日間、「リハビリテーション医学一夢と希望への挑戦—」をメインテーマとして、静岡市の「グランシップ」において開催されます。学術集会ホームページ(<http://www.congre.co.jp/jarm2009/>)等でご案内いたしておりますように、向井千秋先生から宇宙医学とリハ医学についての特別講演、米国のRobinson先生から外傷性神経損傷、韓国のKo先生から足部痛に対するリハ治療、台湾のChang先生から磁気刺激による脊髄運動神経伝導検査に関する招待講演をいただく予定です。この他、先端シンポジウム2題、シンポジウム6題と、パネルディスカッション、特別教育セッションを

会長：慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター 木村 彰男

含めた教育講演20題を企画いたしました。学会員ならびにリハ関連領域の諸先生のご協力をいただきながら、リハ医学が立ち向かうべきあらゆる分野の医学・医療の現状と未来を議論する場をご提供できればと考えております。

最終日には、世界的経済学者である宇沢弘文先生をお招きして、「日本の医療はこのままでいいのか?」というテーマで、県民・市民公開講座を開催いたします。今回は「グランシップ」の大ホール「海」での企業展示も、県民・市民への常時公開といたしました。同会場では、神経生理検査やリハ機器のデモンストレーションなど、様々な企画を準備しておりますので、是非ともお立ち寄りいただければと存じます。

一般演題は、プログラム委員の諸先生のご協力をいただきまして、658演題を採択いたしました。これら全演題の中から、プログラム委員・座長の諸

先生からのご意見をもとに優秀演題を選出し、学会最終日に表彰を行う予定にしております。

本学術集会の開催に当たりまして、会場がある東静岡駅周辺には飲食店の数が限られており、短い時間でランチを召し上がるにはご不便をおかけすることもあるかと存じます。そこで学会会期中は3日間とも、4つのランチオンセミナーを開催いたします。加えて、2日目、3日目にはモーニングセミナーを予定しております。また、2日目午後にはアフタヌーンティーセミナーを開催し、その後の専門医会には軽食等を召し上がりながらご参加いただければと考えております。

静岡県、静岡市、静岡新聞社・静岡放送の後援、静岡県の専門医の皆様をサポートをいただきながら、よりよい学術集会になるよう、鋭意努力してまいりますので、どうぞ皆様ふるって御

参集ください。(第46回学術集会運営幹事 長谷 公隆)

2009年1月以降に出生した児を補償対象とする、「産科医療補償制度」がスタートしました。本制度は、分娩に関連して発症した重度脳性麻痺児およびその家族の経済的負担を速やかに補償するとともに、脳性麻痺発症の原因分析を行い、将来の同種事例の防止に役立つ情報を提供することなどにより、紛争の防止・早期解決および産科医療の質の向上を図ることを目的としております。本制度の詳細は産科医療補償制度ホームページ(<http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/>)をご参照ください。

本制度においては、身体障害者障害程度等級肢体不自由の1級または2級に相当する重度脳性麻痺児を補償の対象(図)としていますが、速やかに補償を行うためには、脳性麻痺の重症度等を早期にかつ正確に診断することが求められることから、診断を行うことができる医師は、本制度の標準補償約款において、

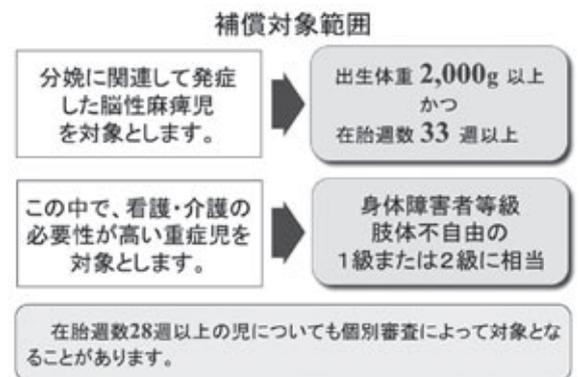
・身体障害者福祉法第15条第1項の規定に基づく障害区分「肢体不自由」の認定に係る小児の診療等を専門分野としている医師

または

・日本小児神経学会の定める小児神経科専門医の認定を受けた医師

と規定されており、当学会にも日本医療機能評価機構

「診断協力医」について 産科医療補償制度と補償申請に係る



から里宇理事長宛の協力依頼が届いています。評議員各位には日本医療機能評価機構から郵送で、診断協力医の情報をお送りいたしました。情報が届いていない先生方でも規定に該当する先生は、産科医療補償制度ホームページに診断協力医の募集案内が掲載されており、現在も継続して募集が行われていますので、是非ご確認ください。

本制度は問題点、課題も多くみられますが、日本リハ医学会では障害保健福祉委員会担当理事の朝貝芳美が窓口となってより良い制度にすべく、日本医療機能評価機構に提言をしていく所存です。

(障害保健福祉委員会担当理事 朝貝 芳美)

専門医会コラム

第4回

リハビリテーション科専門医会学術集会

一般演題、ポスターセッション演題募集

第4回リハビリテーション科専門医会学術集会(2009年10月16日(金)～18日(日)、下諏訪総合文化センター)の一般演題、ポスターセッションの演題を募集いたします。

応募される方は、演題名、演者名(日本リハ医学会の会員で専門医、非専門医は問いません)、200字程度の抄録を、**2009年8月17日(月)**までに電子メールに添付してお送りください。

演題申し込み後2～3日で、受け取りの連絡がない

場合は朝貝までお問い合わせください。なお、最終的な演題の採否、発表形式は代表世話人にご一任ください。

送り先

代表世話人 朝貝 芳美

E-mail : asagai@shinano-iryu.or.jp

〒393-0093 長野県諏訪郡下諏訪町社6525-1

Tel 0266-27-8414 Fax 0266-27-7936

宿泊のご案内

参加者の皆様方に宿泊のご案内をいたします。

下記をご参照の上、ご利用の際は、直接宿泊施設へ電話で、「第4回リハ科専門医会学術集会参加者」と伝えてお申し込みください。(学会参加者と伝えないと、断られる場合があります)

なお、お申込みは先着順の受付となりますので、内容をご確認の上、**2009年8月15日(土)**までにお申し込みくださいますようお願い申し上げます。

<学会場と宿泊施設地図>



<会場周辺の地図>



| 宿泊施設名 | 料金(1人当たり) 単位:円 | | | 付記 | 電話 |
|--------------|----------------|-------|----------|------------|--------------|
| | シングル | ツイン | ツインのシングル | | |
| RAKO 華乃井ホテル | 8,550 | 7,500 | 11,700 | 学会場へ送迎可能 | 0266-54-0555 |
| 諏訪レイクサイドホテル | 6,650 | — | — | | 0266-53-5353 |
| 上諏訪ステーションホテル | 7,815 | 6,765 | 8,865 | JR 上諏訪駅に近い | 0266-57-0001 |
| 諏訪シティホテル成田屋 | 7,605 | — | — | | 0266-52-4500 |
| ルートイン諏訪 | 6,300 | 6,300 | 6,300 | | 0266-53-0500 |

*確保設定期間: 2009年10月15日(木)～17日(土)

*お申込み期限: 2009年8月15日(土)

*宿泊代金: お一人あたり1泊朝食付き、税金・サービス料・入湯税込みの料金です。

*10/17(土)の意見交換会出席の方は、学会場から意見交換会場へバスを用意します。ご利用ください。

宿泊(バリアフリー室など)についての相談窓口

ジェイツアー: 担当 林 秀樹・宮坂昌子

電話: 0266-22-6644

システム委員会だより

会員用Webシステムが稼働を開始し、9カ月が経過いたしました。おかげさまでもちまして、これまでに1,800名近くの会員の皆様にご登録を頂いております。システム委員会はより多くの方々にメリットをご享受いただけますよう、引き続き機能改善とサービス向上に努めてまいります。まだシステムをご利用いただいていない会員の方は、ご登録をよろしくお願いいたします。

会員用WebシステムURL

<https://member.jarm.or.jp/mypage/index.html>

*ご利用には初回ログイン手続きとして、会員番号およびパスワードの入力が必要となります (パスワードにつきましては、2008年学会誌 (JJRM) 第45巻6号315ページをご参照ください)。

登録者数の増加に向けては、地方会単位でも利用促進に積極的に取り組んでいただいております。地方会会場でのキャンペーンについて現場報告が届きましたので、ご紹介いたします。

2009年2月7日に行われた中部・東海地方会会場には無線LANのパソコンが置かれていた。その画面には日本リハビリテーション医学会システム登録画面が立ち上がっている。目の前の壁にはシステム登録方法がポスターとなっていて、さらに周囲には相談に乗る地方会スタッフが配備されていた。午前中はあまり使われなかったが、昼の総会にてパソコンの存在がアピールされた後、人が集まるようになってきた。下の写真はそのときの様子である。登録の仕方に不安を覚える会員をサポートすることの大切さを実感した。

(副委員長 山田 深)



教育委員会だより

2009年度教育委員会活動計画について

教育委員会の守備範囲は広く、担当委員は個々で守備を特化、固定して活動してきています。卒前教育では医学性セミナーやコアカリキュラム、リハ医学教育充実の啓蒙など、卒後教育では初期臨床研修医のリハ科研修促進、リハ後期研修促進など、専門医教育ではカリキュラム/研修手帳作成、生涯教育講演の認定審査、実習研修会の企画・共催など、さらに指導医教育研修会や指導医マニュアルなども手掛けています。時代のニーズに即応した企画も重要で、診療報酬体系の大きな改定がなされた2006年度からは疾患別リハ研修会の主催を通して一般医家向けリハ教育も行って参りました。

さて2009年度においては新役員体制下、専門医育成アクションプランが掲げられており、教育委員会でもいくつかの新たな計画を組むことにいたしました。まずは一般医家向け疾患別リハ研修会がその役割を終えたと判断して発展的に改廃することとし、新たに会員のための**病態別リハ研修会**をスタートすることにしました。診療報酬体系とは切り離して、本医学会が掲げるリハ対象領域別に再編するとともに、実践的な内容を軸に開催したいと思います。また本研修会をベースに解説付きDVD制作を検討しております。将来的には単位認定に直結するe-learningのコンテンツの1つにしたいとも思っております。その他に、専門医試験のための症例報告書の書き方や過去問題の解説を行う専門医試験受験支援講習会の開催や従来の6つの実習研修会に加えて新たに摂食嚥下実習研修会の企画・共催も検討しています。いずれの事業も予算措置を伴うもので、内容によっては支出が収入を上回るものもありますが、会員の先生方にはご理解、ご支援いただきたく、よろしく願います。

(委員長 岡島 康友)

障害保健福祉委員会

市民・会員向け障害者スポーツHPアップ

障害保健福祉委員会では、2008年度の活動の1つとして、障害者スポーツ関連機関・団体リストの最新情報を調査しました。今回は会員用ホームページ (HP) だけでなく、障害者、一般市民の方も閲覧できるように市民向けページにもアップしています。

☆リストの更新

それまで掲載されていた障害者スポーツの団体、施設、組織すべてに問い合わせ、内容の確認、訂正および掲載の承諾を得ました。また各地域の障害者スポーツの担当窓口 (表中の5) を確認しました。さらに現在活動している障害者スポーツ研究団体のリストも追加しました。リストは以下のようになっています。

表：障害者スポーツ関連機関・団体リスト

障害者スポーツ全般について

1. 障害者団体
2. 官公庁 (厚生労働省、文部科学省)

競技種目別障害者スポーツについて

3. 種目別障害者スポーツ協会
4. 障害者スポーツ大会事務局

地域レベルの障害者スポーツについて

5. 都道府県・指定都市障害者スポーツ協会
6. 地域の障害者スポーツセンター

障害者スポーツ研究団体について

7. 障害者スポーツ学術研究団体

☆市民向けページにもリンク

市民向けのページに「障害があってもスポーツを！ 障害のある人のためのスポーツガイド」と題して新たにコーナーを設け、興味のある方が、前記のリストを閲覧できるようにしました。

会員の皆様だけでなく多くの障害者ならびに障害者スポーツに関わる関係者の方々が利用していただけることを望みます。
(障害保健福祉委員会)

評価・用語委員会

PC用リハ医学辞書の提供開始のお知らせ

「リハビリテーション医学用語集 第7版」よりコンピューターでの日本語変換用の「リハビリテーション用語辞書」を作成し、会員ページからダウンロードできるようにいたしました。以前よりPC用辞書の提供を検討しておりましたが、会員のみ配布する適当な方法がなく提供が遅れておりました。

会員専用ページがシステム委員会の御尽力で開設され、ようやく会員のみ提供することが可能になりましたので、提供を開始いたしました。MS-IME用、ATOK用の辞書を用意しました。会員専用ページの「学会からのお知らせ」欄にあります。それぞれのリンク元から圧縮ファイルをダウンロードいただき、解凍してご利用ください。圧縮ファイルにはそれぞれの導入方法を説明するpdfファイルも含めましたので、併せてご利用ください。

会員ページへの登録がまだお済みでない会員におかれましては、この機会に会員登録を行われ、会員ページとリハ用語辞書のご利用をお勧めいたします。
(委員長 根本 明宜)

編集委員会だより

Journal@rchiveについて

39号(2008年10月号)で電子ジャーナル化についてご紹介いたしました。日本リハ医学会のHPの会誌(JJRM)には、利用できる検索システムが3つあります。1997年以降の目次と抄録が見られる従来からのシステムのほかに、J-STAGEでは、2005年以降の総説以外の論文について抄録と本文が、CiNii(シーニー)では、1964年の第1巻から全文がPDF化されてダウンロード可能です。しかし、J-STAGEは論文の全文検索が可能ですが、CiNiiは検索ができませんでした。

この度、J-STAGEから1巻から41巻まで全巻全号のアーカイブ化対象誌に選定されたとの連絡を受けました。これにより、JJRM(リハ医学)誌の創刊号に掲載された論文を含む全ての論文が全文検索できるようになります。先人の研究の継承が一層推進されると予想されます。

また、この作業に伴い過去の論文全ての著作権が学会に委譲されることが必要になります。学会HPと学会誌46巻3号に『日本リハビリテーション医学会雑誌』全巻全号電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知(お願い)が掲載されています。是非、ご覧ください。

今後、J-STAGEとの覚書締結を経て、PDF化の済んだ巻号から公開されることになります。その時期につきましては改めてご連絡いたしますので、是非、ご期待ください。(委員長 長岡 正範)

東北地方会だより

2009年2月28日(土)に第25回日本リハ医学会東北地方会、専門医・認定臨床生涯教育研修会(主催責任者:山形大学医学部整形外科学萩野利彦先生)が山形市保健センターで開催されました。一般演題13題が発表され、活発な討議が行われました。教育研修講演は、札幌医科大学医学部リハ医学講師の村上孝徳先生による「CRPS治療におけるリハビリテーションの役割」と山形大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学教授の鈴木匡子先生による「意図的な運動・行為の障害について」でした。

次回(主催責任者:医療法人社団帰厚堂南昌病院リハ科、本田恵先生)は2009年10月24日(土)、午後1時から岩手県盛岡市のマリオス18階会議室で開催されます。(前事務局担当幹事 金澤 雅之)

中部・東海地方会だより

中部・東海地方会では、第25回地方会学術集会と専門医・認定臨床生涯教育研修会を2009年9月5日(土)に予定しています。研修会は川平和美先生(鹿児島大学大学院医歯総合研究科リハビリテーション医学教授)に「片麻痺への促通反復療法の理論と実際:効率的な神経路強化を目指して」を、鈴木 亨先生(藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科教授)に「脊髄損傷の歩行再建:装具療法からロボットまで」をご講演いただきます。ご参加のほど、よろしく申し上げます。

また、中部・東海地方会の後援で第4回リハビリテーション科専門医会学術集会を2009年10月16日(金)~18日(日)、下諏訪総合文化センターに於いて開催致します。一般演題とポスターセッション演題の募集および事前参加登録、宿泊のご案内を開始しております。詳細は第4回リハビリテーション科専門医会学術集会ホームページ(<http://www.fujita-hu.ac.jp/rehabmed/suwa/>)または、日本リハ医学会ホームページ(http://www.jarm.or.jp/member/member_specialists/)、学会誌46巻2号でご確認ください。

2007年5月より中部・東海地方会のHPを開設しております。学会ならびに専門医・認定臨床生涯教育研究会の詳細はHP(<http://www.fujita-hu.ac.jp/rehabmed/chubutokai/>)をご覧ください。(代表幹事 才藤 栄一)

中国・四国地方会だより

中国・四国地方会では、専門医・認定臨床生涯教育研修会(計20単位)を2009年5月9日(土)16~18時に予定しています。会場は、

高新文化ホール(高知市本町3-2-15 高知新聞放送会館東館7階)です。講演内容は、1)「難治性疼痛のリハビリテーション:複合性局所疼痛症候群CRPSの診断と治療」(広島大学病院リハ科准教授、木村浩彰先生)、2)「肩・膝・股関節疾患のリハビリテーション」(鳥根大学医学部附属病院リハ部准教授、馬庭壯吉先生)です(1講演10単位)。受講費は10単位毎に2,000円で、事前申込は不要です。幹事は高知大学付属病院リハ部准教授の石田健司先生です。

次回の地方会学術集会(第23回大会)は、2009年7月19日(日)9~17時に予定しています。会場はアイテムえびめ(愛媛国際貿易センター、愛媛県松山市大可賀2-1-28)で、松山リハビリテーション病院理事長の木戸保秀先生に大会長をお務めいただきます。特別講演(専門医・認定臨床生涯教育研修会)は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハ医学講座教授の川平和美先生に「片麻痺への促通反復療法の理論と実際-効率的な神経路再建/強化を目指して-」を、慶應義塾大学医学部リハ医学教室専任講師の辻哲也先生に「悪性腫瘍(がん)のリハビリテーション」をお話いただくこととなっています(1講演10単位)。一般演題の発表も予定されており、会員による活発な討議が期待されます(参加10単位)。演題募集の締切は5月19日(火)で、ホームページ上(URL:<http://www.jikyokukai.or.jp/>)での申込みとなります。なお、第28回中国・四国リハビリテーション医学研究会、第25回愛媛県リハビリテーション研究会との同時開催を予定しておりますので、コミディカルの皆様のご出席も可能です。日本リハ医学会会員の先生方には、リハに関係する多くの方々にご参加を呼び掛けていただければ幸いに存じます。学会ならびに専門医・認定臨床生涯教育研修会への参加についての事前申込は不要です。(学術集会の間合せ先:〒791-1111愛媛県松山市高井町1211、松山リハビリテーション病院 木戸保秀、TEL 089-975-7431) (前代表幹事 椿原 彰夫)

九州地方会だより

第25回九州地方会学術集会は、米和徳幹事(鹿児島大学医学部保健学科教授)の担当で本年2月22日に同学鶴陵会館で開催され、盛会裏に終了しました。一般演題は13題でしたが、米会長のご尽力や興味あふれる演題と生涯教育講演の相乗効果で180名を超える参加者がありました。

次回第26回学術集会は、水田幹事(熊本大学大学院医学薬学研究部運動骨格病態学分野教授)の担当で、本年9月13日(日)、熊本市・崇城大学市民ホールで開催、生涯教育講演も3題同時開催されます。多くの会員の皆様のご参加をお願い申し上げます。

幹事会・総会報告(本年2月22日開催):幹事改選に関して、37名の現幹事および2名の現監事は再任、長崎県の幹事として宮崎県から異動の山口幹事を選出、新たに宮崎県の幹事として帖佐悦男幹事(宮崎大学医学部整形外科教授)を選出致しました。また佐賀県の真島幹事が退任、顧問就任が承認されました。

今回、蜂須賀幹事の代表幹事任期満了のため、川平幹事が代表幹事へ、さらに事務局担当幹事が佐伯幹事から筆者へ、事務局を産業医科大学から鹿児島大学に変更する基本方針が承認されました。長年にわたって要職を務められた蜂須賀先生と佐伯先生に心から感謝申し上げます。また、今回事務局を担当することとなり、その重責に身の引き締まる思いです。ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。(事務局担当幹事 下堂 蘭 恵)

◆◆事務局だより◆◆

●桜咲く季節となりました。この時期は、転居先不明の郵便物が山のように事務局へ戻ってくる季節でもあります。そのまま連絡ができなくなる場合も多いので、**転勤転居のお届け**につきましては、会員専用ページ<https://member.jarm.or.jp/mypage/index.html>や、学会誌の届け出用紙をご利用の上、速やかにご手配いただけますようお願いいたします。
●**通常総会の出欠**について、ハガキを全会員に送付いたしました。4月30日(水)までにご投函いただけますようお願いいたします。

第34回 日本脳卒中学会

第34回日本脳卒中学会は、2009年3月20～22日、島根大学医学部附属病院長小林祥泰会長のもと、島根県松江市の島根県民会館およびサンラポーむらくもにて開催された。メインテーマは「脳卒中を知る」であった。

当日はStroke2009として脳卒中学会、脳卒中の外科学会、スパズムシンポジウムが同会場で同時開催されており、これらの学会の他、日本高血圧学会、日本腎臓学会、日本血栓止血学会などとの合同シンポジウムも開かれるなど、脳卒中に関して多方面から学ぶことができるように企画されていた。また、脳卒中看護セミナー、リハ関係者・MSWなど

のコメディカルスタッフとの合同セッションも設けられ、地域や他職種との連携を意識した企画も多く見られた。リハ関連では「脳卒中のリハビリテーションと地域連携パス」「Stroke team, SCU (Stroke Care Unit) の現状と課題」などのシンポジウムが開催された。

本年度で退任される篠原理事長による恒例となった講演では在任中6年間の学会の取り組みを再検証するとともに、「脳卒中对策基本法」の制定に向けて学会としても積極的に取り組んでいくことや、脳卒中ガイドラインの改定、脳卒中認定看護師などのコメディカルとの連携、市民への啓発活動などを一層進めることなどを今後の課題

として取り上げておられた。特に国民病としての脳卒中の制圧のために「脳卒中对策基本法」の早期制定は重要と思われる。

また、小林会長講演では脳卒中データベースの登録がすでに50,000例近くに及んでいることや、今後これをリハのデータベースとも連携させることなどを報告された。これらをきっかけとして脳卒中学会とリハ医学会との間にも緊密な関係が築かれることを望む。

その他一般演題でも、急性期治療からSCU、チーム医療のあり方にまでさまざまな発表に活発な議論がなされていた。

今回は2010年4月15日から17日まで盛岡市で開催される予定である。

(大阪厚生年金病院神経内科 寺川 晴彦)

〇〇〇 広報委員会より 〇〇〇

花見の季節になってきました。このニュースが発行されるころには桜舞い散る光景があちこちで見られているのでしょうか。

さて一方、世間は100年に一度と言われる経済危機に見舞われ、医療界においても医師偏在をはじめとした問題が山積し、不安定な様相を呈しています。

本特集では、育成アクションプランの中の課題の1つである女性専門医の会について取り上げさせていただきました。何かと不安定な昨今であるからこそ、人の英知と努力が重要です。このような取り組みが、後の大きな成果の差を生むような

気がしてなりません。期待が膨らみます。同時に男性である私は、男性も負けじと頑張らなくては?という思いも致します。

「リハ医への期待」を引き続きシリーズとして掲載いたしました。寄せていただいたリハ医への「声」に真摯に耳を傾け、そもそも誰のためのリハ医なのかを確かめながら前に進むことがますます重要ではないかと、若輩ながら思う今日この頃です。リハニュースを通じた情報発信が少しでもリハ学会・医療の発展につながればと思います。(大高 洋平)

待望の改訂版テキスト! 最新情報の追加と内容の更なる充実。

現代リハビリテーション医学

改訂第3版

編集 千野 直一

慶應義塾大学名誉教授

本書は、リハビリテーション医学の代表的教科書として、医学生はもとより、コメディカル養成校で採用され、高評を博している。



B5判 672頁 504図 原色16図 定価9,240円(本体8,800円+税5%) ISBN978-4-307-25142-6

最新3版の特色 ●【再生医療】などの新しい章を新設するなど、リハビリテーション界をとりまく動向、環境変化から、今後を見据えた項目立て。●リハビリテーション医学の進歩およびこれらの社会情勢の変化を考慮して、いよいよ重要性が高まる【地域医療連携】の最新事情を追加するなど、内容が大幅にバージョンアップ。

おもな内容 リハビリテーション医学総論／機能解剖・生理学／臨床運動学／リハビリテーション診断学／機能障害の評価とリハビリテーション／日常生活動作(活動)の評価／リハビリテーション治療学／リハビリテーション医学各論／リハビリテーション治療・訓練処方／在宅リハビリテーション／再生医療とリハビリテーション医学／スポーツ医学とリハビリテーション／付 リハビリテーション社会学

金原出版

〒113-8687 東京都文京区湯島2-31-14 電話03-3811-7184(営業部直通) FAX03-3813-0288
振替00120-4-151494 ホームページhttp://www.kanehara-shuppan.co.jp/



持続性ARB/利尿薬合剤

薬価基準収載

プレミネント錠

〈ロサルタンカリウム/ヒドロクロロチアジド錠〉

指定医薬品・処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細については製品添付文書をご参照ください。

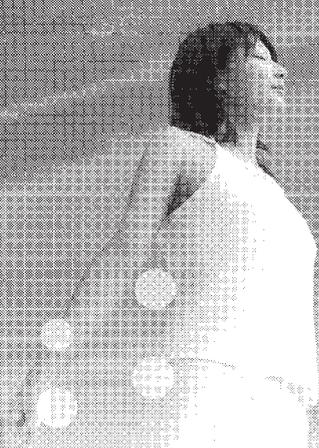
Registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

製造販売元【資料請求先】

万有製薬株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

2008年6月作成 | 06-13CZR-08-J-A145-J



LOXONIN

経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤 薬価基準収載

ロキソニン[®]

パップ100mg

指定医薬品 ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 **リードケミカル株式会社** 販売元(資料請求先) **第一三共株式会社**
〒930-0912 富山県富山市百俣77-3 Daichi-Sankyo 東京都中央区日本橋本町3-5-1
0705 (0902)



LOXONIN

経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤 薬価基準収載

ロキソニン[®]

テープ 50mg 100mg

指定医薬品 ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 **リードケミカル株式会社** 販売元(資料請求先) **第一三共株式会社**
〒930-0912 富山県富山市百俣77-3 Daichi-Sankyo 東京都中央区日本橋本町3-5-1
0807 (0902)



骨粗鬆症治療剤・骨ページェット病治療剤

ベネット錠 17.5mg

リセドロン酸ナトリウム水和物錠

薬価基準収載

劇薬・指定医薬品・処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



(資料請求先)

武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

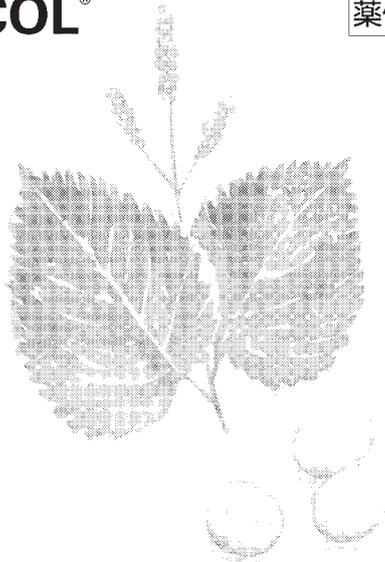
(0902)

経腸栄養剤(経管・経口両用)

ラコール®

RACOL®

薬価基準収載



200mL アルミパウチ

(ミルクフレーバー、コーヒーフレーバー、バナナフレーバー)

400mL バッグ

◇効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

販売提携
大塚製薬株式会社
Otsuka 東京都千代田区神田司町2-9

販売提携
株式会社大塚製薬工場
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

製造販売元
イーエヌ大塚製薬株式会社
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5

資料請求先
株式会社大塚製薬工場 学術部
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-9

(07.12作成)

お知らせ

詳細は <http://www.jarm.or.jp/>
(開催日、会場、主催責任者、連絡先)

【第46回日本リハ医学会学術集会】

●6月4日(木)～6日(土)、静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、テーマ:リハビリテーション医学—夢と希望への挑戦—、会長:木村彰男(慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター)、運営幹事:長谷公隆(慶應義塾大学リハ医学教室)、Tel 03-5363-3833、Fax 03-3225-6014、E-mail: jarm2009@ktrc.med.keio.ac.jp、<http://www.congre.co.jp/jarm2009/>

【専門医会】(40単位)

●第4回リハビリテーション科専門医会学術集会:10月16日(金)～18日(日)、下諏訪総合文化センター、朝貝芳美(信濃医療福祉センター)、Tel 0266-27-8414、宿泊申込締切:8月15日(土)、演題募集締切:8月17日(月) 詳細は本紙p5掲載、事前参加登録締切:8月31日(月) 詳細は学会誌46巻3号p144-146掲載

【地方会】

●第19回北海道地方会等(30単位):4月25日(土)、札幌医科大学記念ホール、石合純夫(札幌医科大学医学部リハ医学)、Tel 011-611-2111(内線3684)、Fax 011-618-5220

●第23回中国・四国地方会等(30単位):

7月19日(日)、アイテムえひめ(愛媛国際貿易センター)、木戸保秀(松山リハビリテーション病院)、Tel 089-975-7431、Fax 089-975-1670、演題締切:5月19日(火)

●第25回中部・東海地方会等(30単位):9月5日(土)、大正製薬(株)名古屋支店、田中宏太佳(中部労災病院リハ科)、Tel 052-652-5511、Fax 052-652-9214、演題締切:7月10日(金)

●第27回近畿地方会等(30単位):9月5日(土)、大阪医科大学 新講義実習棟 P101室、村尾 浩(大阪医科大学総合医学講座リハ医学教室)、Tel 072-683-1221、Fax 072-684-6336、演題締切:7月31日(金)

●第43回関東地方会等(30単位):9月12日(土)、東京慈恵会医科大学1号館3階講堂、大橋正洋(神奈川リハビリテーション病院)、Tel 0462-49-2652、Fax 0462-49-2502、演題締切:8月15日(土)

●第26回九州地方会等(40単位):9月13日(日)、崇城大学市民ホール、水田博志(熊本大学大学院医学薬学研究部運動骨格病態学分野)、Tel 096-373-5226、Fax 096-373-5228

【専門医・認定臨床医生涯教育研修会】

●近畿地方会(30単位):4月18日(土)、兵庫医療大学、平田総一郎(神戸大学大学院保健学研究科)、Tel 078-792-2555、Fax 078-796-4509

●中国・四国地方会(20単位):5月9日(土)、高新文化ホール、石田健司(高知大

学医学部リハ部)、Tel 088-880-2491、Fax 088-880-2492

【実習研修会】(20単位)

◎2009年度実習研修会開催予定は学会誌46巻4号をご覧ください。

【関連学会】

第53回日本リウマチ学会(20単位)(20単位):4月23日(木)～26日(日)、グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール、(株)ウィアライブ コンベンション事業部、Tel 03-3552-4170

第36回日本脳性麻痺研究会(30単位):6月6日(土)、グランシップ(静岡市)、森山明夫(静岡医療福祉センター)、Tel 054-285-0753、Fax 054-287-7982

●◎認定臨床医受験資格要件:認定臨床医認定基準第2条2項2号(認定臨床医受験資格要件)に定める指定の教育研修会、◎:必須(1つ以上受講のこと)

広報委員会:田島文博(担当理事)、山田深(委員長)、阿部和夫、安倍基幸、大高洋平、志波直人、野々垣学、平岡 崇

問合せ:「会員の声」投稿先:「リハニュース」編集部〒113-0032東京都文京区弥生2-4-16(財)学会誌刊行センター
Tel 03-3817-5821 Fax 03-3817-5830
E-mail: r-news@capj.or.jp
製作:(財)学会誌刊行センター
印刷:三美印刷(株)

エーザイは、「運動器の10年」活動のパートナーとして運動を推進してまいります。

エーザイ販売の主な



運動器疾患における治療薬・診断薬

創薬・指定医薬品
処方せん医薬品:注意—医師等の処方せんにより使用すること
骨粗鬆症治療剤

アクトネル®錠2.5mg
骨粗鬆症治療剤/骨ページェット病治療剤

アクトネル®錠17.5mg
〈リセドロン酸ナトリウム水和物錠〉

骨粗鬆症治療用ビタミンK₂剤

グラケール®カプセル15mg
〈メナテレンオン製剤〉

指定医薬品
処方せん医薬品:注意—医師等の処方せんにより使用すること
筋緊張改善剤

**ミオナール®錠50mg
顆粒10%**
〈エペリゾン塩酸塩製剤〉

末梢性神経障害治療剤

**メチコバル®錠250μg
錠500μg
錠10%**

処方せん医薬品:注意—医師等の処方せんにより使用すること

メチコバル®注射液500μg
〈メコバラミン製剤〉

創薬・指定医薬品
処方せん医薬品:注意—医師等の処方せんにより使用すること
組織活性型鎮痛・抗炎症剤

**インフリー®カプセル100mg
インフリー®Sカプセル200mg**
〈インドメタシン フアルネシル製剤〉

指定医薬品
経皮吸収型鎮痛消炎剤

フェルビナクテープ70mg「EMEC」
〈フェルビナク貼付剤〉

創薬・指定医薬品
鎮痛・抗炎症・解熱剤

ロキソプロフェン®錠60mg「EMEC」
〈ロキソプロフェンナトリウム水和物錠〉

低カルボキシル化オステオカルシンキット
血清中低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)測定用医薬品

ピコルミ® ucOC
〈電気化学発光免疫測定法〉

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



エーザイ株式会社
〒112-8068 東京都文京区小石川4-6-10
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先:エーザイ株式会社 お客様ホットライン室
☎0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

SE0807-3 2008年7月作成

12 リハニュース No.41 2009.4.15 発行 第3種郵便物認可